

8 章 光ケーブル工

8.1 光ケーブル配管工

8.1.1 適用

8.1.2 土工

8.1.3 配管設置

8.1.4 ハンドホール設置

8章 光ケーブル工

8.1 光ケーブル配管工

8.1.1 適用

1. 適用

河川堤防に布設する光ケーブル配管工事に適用する。

8.1.2 土工

1. 適用

光ケーブル配管工事の土工に適用する。

2. 数量算出項目

掘削、埋戻しの土量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、なし。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報		
			単位	数量	備考
掘削(光ケーブル配管)		土構造	m ³		
埋戻し締固め		土構造	m ³		レキ質、砂・砂質土、粘性土に適用

(注) 1. 掘削及び残土処理数量は、地山数量とする。

2. 埋戻し締固めの土量は、締固め後の土量とする。

8.1.3 配管設置

1. 適用

配管及び付属品の設置に適用する。

2. 数量算出項目

配管の設置延長を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、多孔保護管の有無、配管材設計数量／対象延長、設置条数とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報					
			配管材 種類	配管材 設計数量 ／対象延長	設置 条数	単位	数量	備考
配管設置（埋設部）	B	B	○	×	○	m		注) 1
配管設置（露出部）	B	B	×	○	○	m		注) 2, 3
配管支持金具 （材料費）	B	B	×	×	×	個		
プルボックス （材料費）	B	B	×	×	×	個		
可とう電線管 （材料費）	B	B	×	×	×	m		
伸縮継手 （材料費）	B	B	×	×	×	個		
ノーマルバンド （材料費）	B	B	×	×	×	個		
多孔保護管 （材料費）	B	B	×	×	×	m		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

- 注) 1. 埋設部の対象延長（設計数量）は、配管設置箇所の掘削延長（継手含む）とし、配管の条数に関係なく算出する。
2. 露出部の対象延長（設計数量）は、継手材及び配管付属品類を含んだ区間延長とし、配管の条数に関係なく算出する。
3. 配管材設計数量／対象延長の条件区分は、参考図 2 における $a / (a + b)$ の比率による。

(2) 施工区分

埋設部、露出部ごとに算出する。

注) 露出部とは、管路を構造物等に添架して設置する部分をいう。

8.1.4 ハンドホール設置

1. 適用

ハンドホール、蓋等の設置に適用する。

2. 数量算出項目

ハンドホール、蓋を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格・仕様とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

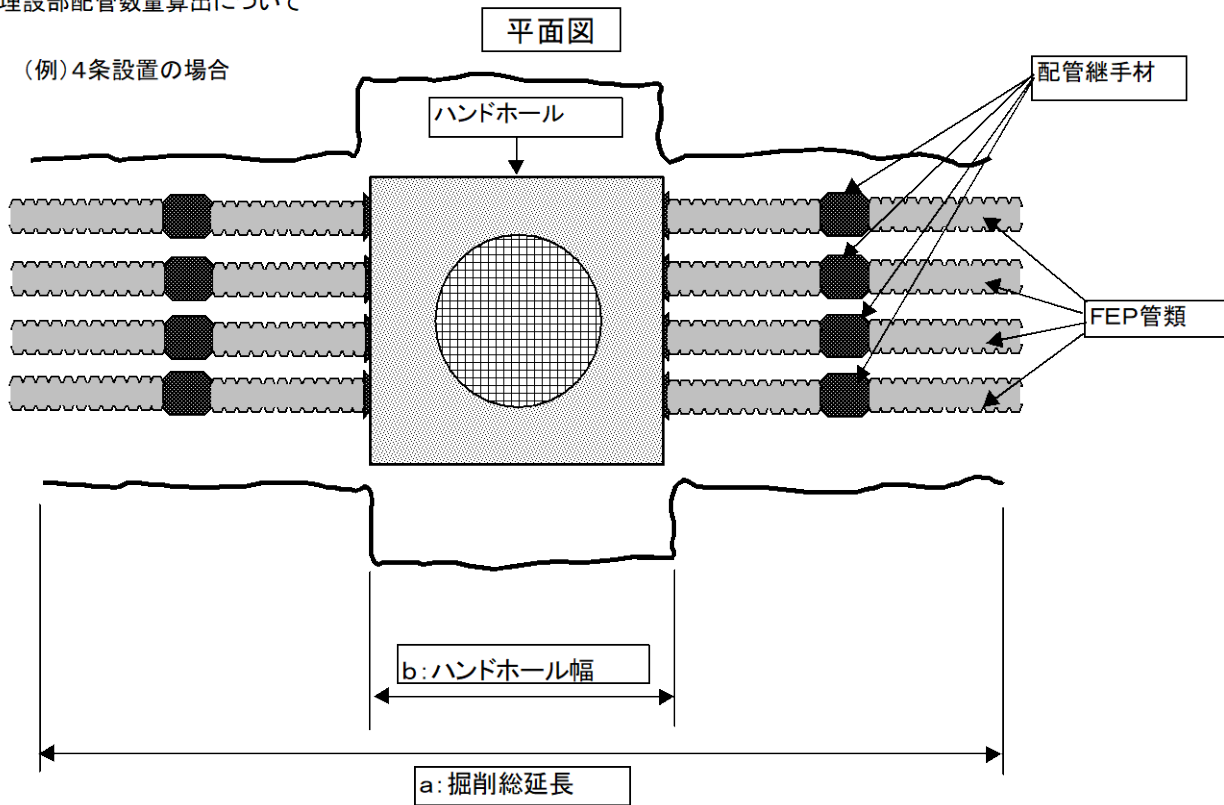
項目	区分	BIM/CIM モデル	属性情報			
			規格・仕様	単位	数量	備考
ハンドホール		B	○	個		
蓋		B	○	枚		

BIM/CIM モデルによる数量算出方法は、コンクリート構造を参考とする

[参考図 1]

埋設部配管数量算出について

(例) 4条設置の場合



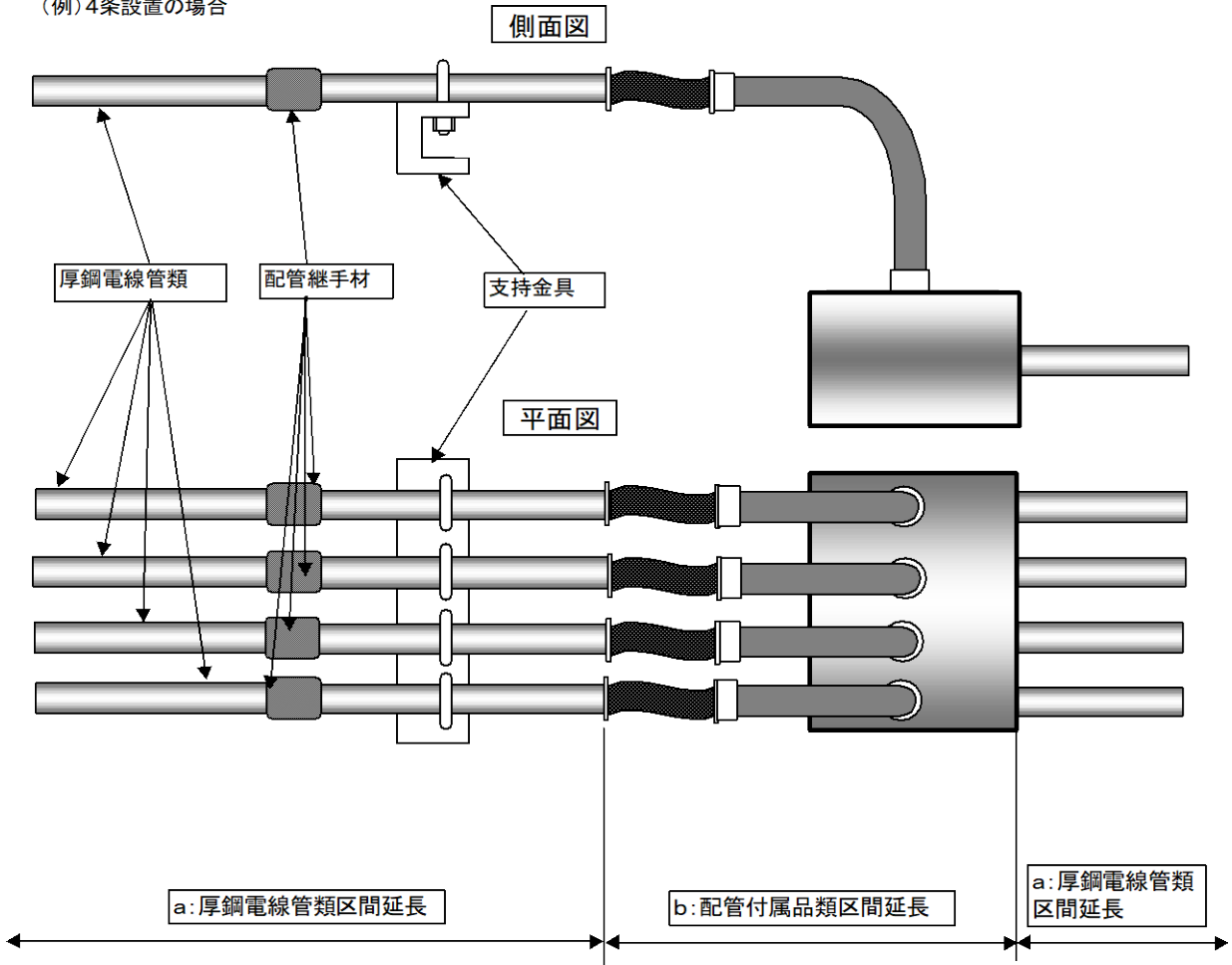
対象延長(掘削延長) = ※ $a - b$ とする。
※ハンドホール幅は除き、配管継手材等は含む。

配管材料使用量
設計数量 × 条数 ※設計数量 = FEP管類延長
FEP管類延長とは、対象延長(掘削延長) = $a - b$ とする。
諸雑費には、配管継手材を含む。

[参考図 2]

露出部配管数量算出について

(例) 4条設置の場合



対象延長=※a+b
 ※a: 厚鋼電線管類区間延長とは
 配管類の設置延長であり、継手材の材料延長は含まれている。
 b: 配管付属品類区間延長とは
 配管及び配管継手以外の配管部品の設置延長である。
 (例)
 プルボックス、可とう電線管、伸縮継手、ノーマルベント、その他必要な部品

配管材料使用量
 設計数量×条数 ※設計数量=a: 厚鋼電線管類区間延長
 諸雑費には、配管継手材の材料費等を含む。
 支持金具及び配管付属品類は、別途必要量を計上する。